



# 俳句

( 2025 )



## 目次

たべもの俳句	モロク俳句	歳時記俳句
10	5	1
〽	〽	〽

4月には本格的な春を迎え、樹木が新しい緑の葉を付け始める時期です。新年度がスタートすることもあり、心がウキウキする希望に満ちた季節と言えます。そんな4月の季語には、美しい花や活動を始めた動物など、春の息吹を感じさせるものが多く揃っています。

(宇佐美保幸)メール・[yasuyuki.usami@gmail.com](mailto:yasuyuki.usami@gmail.com)

毎日の俳句は次のブログに  
巣鴨とげぬき徒然俳句  
<https://blog-haiku.777usami.com>

春爛漫桜連翹雪柳  
誰もかな「花の下で死なむ」望みあり

いつか死ぬ避けて通れぬ花見かな  
清明のすがすがしさと理髪店

上野山酒の腐臭や花の山  
花の夜のスマホ着信黄泉よりか

着信音なぜか慌てる花疲れ  
カラヤンもすでに昔に桜まじ

青空が千代紙となり山桜  
さくらさくら昭和のさくら物語

満開の桜血圧高止まり

明白なのは桜咲き桜散る

桜桜づくしの日本かな

花の寺この時期だけは賑わって

容赦なく記憶薄れて桜散る



日本人万有引力花吹雪  
嘘ばかり悠々自適花ふぶき

食卓にストロベリーキャンドル数輪を  
来年に期待を込めて飛花落花  
チューリップ脳に活力注入し  
出会い系即愛時代つばめかな

寄居虫や引っ越し荷物何もなく  
八重咲きのストック華やか美を誇る

桜蕊桜並木の桜ごみ  
桜薬降るかばの鼻二つ三つ  
桜薬ウーバーイツ運びけり

心得ぬしぶとさもあり残花なお  
我が庭に山吹咲いて黄あふるる  
山吹の黄色あふるるちさき庭



多摩川を上る若鮎その先は  
満天星は逆らわず咲き主張する  
満天星は誰が死んでも変わらない  
満天星は刈り込まれても花咲かす

人も物火葬にされる春の人  
川下り春の歓声飛沫浴び  
染み入るや後期高齢春夕日

春の雷カフェの会話が途切れけり  
春の雷なだめてみても無駄となる  
マーラーのシンバルごとき春の雷

多様化し三千種類蠅生る

対岸の幾多の工場陽炎える  
小鳥埋め陽炎くらき庭の土  
陽炎や老いが進みし日本人



葱坊主ぽんと一本備前焼  
明日葉は育ちすぎれば見捨てられ

憲法九条蜂に襲われ泣くばかり  
スズメバチ巢の駆除終わりコーヒーを

ゴルフ場OBボール山藤へ  
白藤の微妙な白を慈しむ

昭和の日ステテコを買うエアリズム  
夏近し水族館とイルカショー  
夏近し常盤万作燃え上がる

蜜蜂のお家騒動四月尽



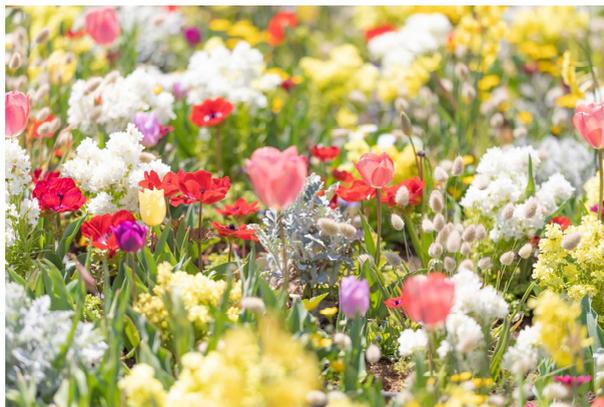
モーロク俳句

弥生かなモーロクすれど企てを  
残酷な四月となりてモーロクす

モーロクし壊れていてもチューリップ  
モーロクしされど直感チューリップ  
モーロクし枝垂れ桜も身に重く

モーロクし墓のことなど木瓜の花  
木瓜の花寡黙一念モーロクす  
モーロクし外出億劫木瓜の花

モーロクし躁から鬱へ花の山  
モーロクし躁から鬱へ春の山  
モーロクし姥捨て山は春の山  
春の山モーロク進み空しけれ



モーロクし思考停止の夜桜や  
夜桜やモーロクすれど後十年

山桜ことにモーロク山桜  
モーロクし素直になろう山桜

モーロクし桜月夜の寂しけり  
さくらさくらモーロクすれどさくら色

モーロクし息を整へ見るさくら  
花は今日モーロクすれば奈落かな  
モーロクし桜桜で疲れけり

花よ花老若男女モーロクす  
南無権現われらモーロク花の塵  
寝て食べてモーロクすれど花を見る

モーロクししばらく距離を菜の花や  
菜の花の沖を浄土とモーロクす



モーロクし余生幾年燕来る  
ヒヤシンズモーロク吾の独り言

モーロクしされど生きてる春を吸う  
春なれど旅もかなわずモーロクす  
モーロクしちよつとでかける春なので  
モーロクし余命を意識春の服  
モーロクしされど口笛春真中  
春なれど深き吐息やモーロクし

モーロクしノルマの散歩山笑う  
モーロクし賽の河原で野遊びし  
モーロクし時に遠足したくなる

モーロクし亀が鳴くなら吾もまた  
亀鳴くやモーロクすれど正気あり  
モーロクしあの世の国の亀が鳴く



ツナ缶を開けてモーロク 春愁や  
春愁を刻み刻んでモーロクす  
春愁か自撮り写真はモーロクす

モーロクし怯えておりぬ鎮花祭  
モーロクし記憶も散りて花吹雪

桜散る桜地獄かモーロクす

モーロクす吾と不仲で桜散る

モーロクしのつぺら脳に桜散る

桜散るひとあしごとにモーロクす

散る桜モーロク進み虚ろな眼

モーロクし電動自転車桜散る

落花浴び生きる途中にモーロクす

散るものは散りてモーロク 春は逝く

不満など捨ててモーロク 春あらし  
モーロクし己は己座禅草



モーロクし降るほかはなし桜薬  
桜しべ降らす夜雨にモーロクす

モーロクしよくもわるくも夏近し  
モーロクしモーロク如何がと夏間近

おぼろ月吾もモーロクおぼろ脳  
朧夜に何にぞつこんモーロクし  
モーロクし肝はしぼみし朧の夜

モーロクし黄金週間啼かぬ鴉  
モーロクし帳尻合わす春の暮れ  
散るものは散りてモーロク春は逝く



たべもの俳句

ほたるいかアボカドプラス酢みそあえ  
 パスタかな和風味つけホタルイカ  
 ホタルイカ潰し炒めてパスタかな

桜鯛目玉好みの吾子がいて  
 花の下ノンアルワインで昼の宴

春キヤベツオーロラサラダ甘ソース  
 春キヤベツまるごと一個だしびたし  
 春キヤベツ塩気きかせてチーズ焼き  
 春キヤベツお好み焼き風紅シヨウガ  
 春キヤベツレンジ加熱の回鍋肉  
 春キヤベツ卵白加え豚汁に

鮮度よし春の煮魚メリハリを



とり肉とレタスのスープコクうまに

リングイネたつぷり魚介春テラス  
やきそばパン春のお昼は簡単に  
菜の花に豚肉のkok辛子醤油

さくら散る夜の中国紹興酒  
とろとろにアスパラガスの卵丼

桜えびペッパ―炒め香ばしく  
kok旨味イカスミパスタ桜散る  
イタリア風バジルポテサラ春の風

あしたばとベーコンソテーほろ苦く  
あしたばを豚キム炒めパンチあり  
ほろ苦くあしたば梅和え箸休め  
ほろ苦くあしたばごま和えおつまみに  
あしたばをツナゴマ和えにほろ苦さ



あしたばの月見納豆ネバとろり  
ほろ苦い明日葉 pasta めんつゆで  
明日葉のペペロンチーノ御蔵島

黄金比めばる煮付けをふつくらと  
熱々のめばる酒蒸しごま油かけ

春野菜甘辛炒め豚バラと  
新玉のみそ炊き込みご飯とり肉と

パクチーの香りやみつき春サラダ  
行く春にお好み焼をレンチンで  
行く春に冷凍たこ焼きレンチンで

春うらら自動調理で晩ご飯  
白あえ風サニーレタスでごま風味  
サラダ菜のチョコレギサラダでごま風味





